福建省福清で亡くなった日本人の「ネエサン」のことを教えて下さい

林伯耀

私は在日中国人二世の林伯耀と申します。私の父林同禄（リントンルウ）は、故郷の福建省福清での生活が苦しかったことと病身の祖父の高額な借金を返済する為に、1913 年（大正 2 年）、22 歳の時に同郷人を頼って上海から船に乗り横浜港に上陸しました。当初は貿易商や理髪店の徒弟奉公などをしていましたが、1916 年東京で呉服行商人を始めました。行商が少し軌道に乗り、1921 年に祖父の借金返済のために一時帰国し再度東京に戻って来ています。当時は旅券やビザなどは無く、行商人と言えば上陸できました。但し上陸後は居住地の警察に届け出なければなりません。1899 年（明治 32 年）7 月交付された勅令 352 号以降、従前の外国人居留地及雑居地以外でも外国人（主に清国人を対象）は許可を得れば居住又は其の業務ができました。一般労働者についても大正バブルがはじけ戦後恐慌（1920 年）が始まり 1922 年 2 月に内務省警保局長通牒「支那人（ママ）労働従事者取締の件」が各庁府県長官宛てに出されるまでは、中国人の渡日は比較的自由でした。この時期の中国人の日本渡航は自由移民だったと言えます。当時は、むしろ日本側が中国大陸への進出を狙う日本人の自由な渡航を希望していたので、両国の間には、ビザや旅券などの免除協定が出来ていました。従来の日中双方の出入国の自由を確認するような形で、1918 年 2 月に発効した「外国人本邦入国規制の除外に関する日支公文」には、相互に旅券携帯の免除を確認しています（川上巌「出入国管理制度の変遷（八）」。

1923 年 9 月 1 日、東京に居た父は関東大震災に遭遇し、結婚したばかりの妻と一緒にカバン一つを持ってアパートから逃げ出すのが精いっぱいだったと言っています。彼の妻とは私の母親であり、その父母は私の父と同じ福清籍で早くに朝鮮に渡っていました、彼女は朝鮮の釜山（プサン）で生まれ育ち、13 歳の時に父母に伴い朝鮮から名古屋に来て、1922 年、17 歳の時に私の父と結婚しました。父によれば母の日本語はまだ堪能ではありませんでした。

9 月 1 日の夜に、すでに東京の各所に夜警の自衛組織が現れ、2 日の午前から自警団が急速に作られていきました。父と母はその排外的な雰囲気を素早く察知し、身の危険を感じて、どのように連絡しあったのでしょうか、2 日の午後には東京駅近くの京橋に、父母を含めて 17 人の福清の同郷人が集まりました、その後父は皆を連れて日比谷公園に仮事務所を作っていた警視庁に乗り込んで保護を求めたと言っています。浙江省から来日した、王貞治さんの父親、王仕福さんも、当時東京で行商人をしていましたが、震災時に警察に保護され千葉の習志野収容所に送られ、その後上海に強制送還されています。

関東大震災で人為的被害を受けた中国人の名簿は 800 名近くあります。その半数余りは東京江東区の大島町事件で、集団虐殺で犠牲になった浙江省温州の出身者ですが、浙江省以外にも、江蘇省、広東省、福建省出身の被害者の名前もあります。父の故郷福清からは、父以外にも多くの同郷人が、当時横浜、東京に来て、呉服行商をしていました。被害者名簿の中から私は福清出身者 13 人の名簿を引っ張り出して、2015 年、福清で第 55 回旅日福建同郷懇親会が開催された際に、私も参加して、その時、取材に来ていた地元新聞社の「福清僑郷報」の陳仁傑記者に頼んで、13 人の被害者の遺族を捜していただいた。新聞を通じて探索が始まり、地元の話題になり、機関の幹部や古老など多くの人が係わり、1 年かけて 9 人の被害者の遺族が見つかりました。

この 9 人の中で林振栄さん一家 3 人と陳善慶さんが自警団に襲われながらも一命を取り止め故郷に帰

って来ています。40 歳の林振栄さんと日本人の妻、曽松さんそして 9 歳の娘の雪子さんの一家三人が月島の交番前で、鉄棒で殴られて半死半生の目に遭ったと記録されています。このとき林振栄さんすでに日本に帰化しておられたということです。

実は私が今日お話ししたいのは、もう一人の陳善慶さんのことです。記録では福清県東瀚鎮東庄村の出身で、当時神奈川県鶴見潮田町 1648 番地に住んでいたということです（台湾の中央研究院近代史研究所所蔵:「日本震災惨殺華僑案」)。陳さんの甥の陳興伝さんが語ってくれたところによると、陳善慶さんは、もう一人の同郷人（陳存禮か）と鶴見と東京の間を移動しているときに自警団につかまり襲われました。日本人はひどい暴言を吐きながら、陳さんの背負っていた荷物を奪い、陳さんを後ろ手に縛りあげ、鉄棒で肩を、鳶口で腹を、鎖で足を殴りました。陳さんは四肢を折られて瀕死の重傷を負いました。これを聞きつけた日本人妻の「ネエサン」が、現場に駆けつけて来て、「これは私の夫です」と言って、陳さんを複数の死体の中から救い出したのです。この時「ネエサン」は自分の夫だけではなく、同時に襲われていた他の中国人や台湾人、コレアン（朝鮮人）も助け出したということです。「ネエサン」は、このまま陳さんが日本にいると日本人に殺されるかも知れないと身内から言われて、翌年の 1 月、重度障害者の夫と 4 歳の息子、陳興仁と 2 歳の娘を連れて、大変な苦労をして夫の故郷、福建省福清に来ました。これらの話は陳興伝さんが生前の陳善慶さんや「ネエサン」から聞いた話です。しかし夫の両腕は極度に弯曲し、後に反り返り、両脚も曲がって、杖なしで歩行すればすぐにつまずき倒れるという具合で、完全に労働能力を喪失していました。そこで止むを得ず、陳さんは自分の所有していたわずかの土地と家を売り払いました。しかし貧困からは抜け出せず、陳一家は口数を減らすために、胸が大きくなったばかりの娘の「アナンチャン」を童養媳（トンヤンシー）に出し、背が高く、村人は「外人」とあだ名呼びし、父親は「ヒデボウ」と呼んでいた息子も壮丁として出しました。二人ともその後は行方不明ということです。47 年に陳善慶さんは福州で首吊り自殺をし、その翌年「ネエサン」は疾病と飢餓で苦しみながら地面にうずくまるようにして亡くなりました。「アナンチャン」が童養媳で連れて行かれるとき、大きな声で泣いていたのを今も覚えている、と陳興伝さんは言いました。また、「ネエサン」は、福清に来てからすぐに地元の言葉を覚え、小柄だったがとても人に優しく、畑の中の捨てられた野菜くずや山菜を採るためによく陳興伝さんを連れて歩いたとも言っていました。

この「ネエサン」のお墓に、2018 年 5 月に「追悼する会」の仲間と一緒に訪れたのですが、それは村の入口の落花生畑の下にあり、見ることはできませんでした。その時、彼女の頭は東北に向けて寝かせてあると言われました。それは「ネエサン」の魂がいつでも故郷の日本に飛んで帰ることのできるようにという陳一族と村人の思いだということです。今年の 5 月に再度訪れたときは、親族がその土地の権利を買って、落花生畑を切り開いたので、「ネエサン」の粗末な平たいお墓が地表に表れていました。私たちは日本から持参したお酒や、浅草の運行寺（棗寺）からいただいた観音像を献げ、「ネエサン」を偲んで追悼しました。

あの時代、中国人の夫と日本人の妻が、国境を越えて夫婦となり、家庭をつくりました。しかし、関東大震災でむき出しになった日本社会の民族排外主義は、陳善慶と「ネエサン」の家庭を無残に破壊し、最後に日本人の「ネエサン」をも惨めな死に追いやりました。しかし、日本人の「ネエサン」が勇敢に自警団の暴虐から中国人の夫の陳善慶を救い出し、多くの困難を乗り越えて陳善慶を中国の故郷に連れ帰ったその精神こそは、当時露出した日本社会の民族排外主義に対決しうる日本人民衆の国境を越えた偉大な国際主義の精神とも言うべきものではなかったか、在日中国人の私はそう思うのです。関東大震災がも

たらした排外主義による悲劇の物語は日本人も含めてあったことを忘れないで欲しい。

いま私は、この善良で偉大な「ネエサン」のお身内を捜しています。どうかこの「ネエサン」に関わる情報がありましたら教えてください。誰かこの「ネエサン」のお名前をご存じならば教えて下さい。

尋ね人！誰か「ネエサン」の名前を教えて下さい！

「ネエサン」の身内をさがして下さい！

1923年当時（38才）

「ネエサン」の墓は米島の落花生畑の中にあり、頭を東北に向けて寝かせてある。その之魂が、故郷の日本に飛んで帰れるように。

陳善慶（1947年自死する）（病死）

「ネエサン」（日本人妻）（？才）

夫は妻を（回多）「ポポウ」と呼んだ

日減らしのために荘丁に出される……

息子（4才）**陳興仁**

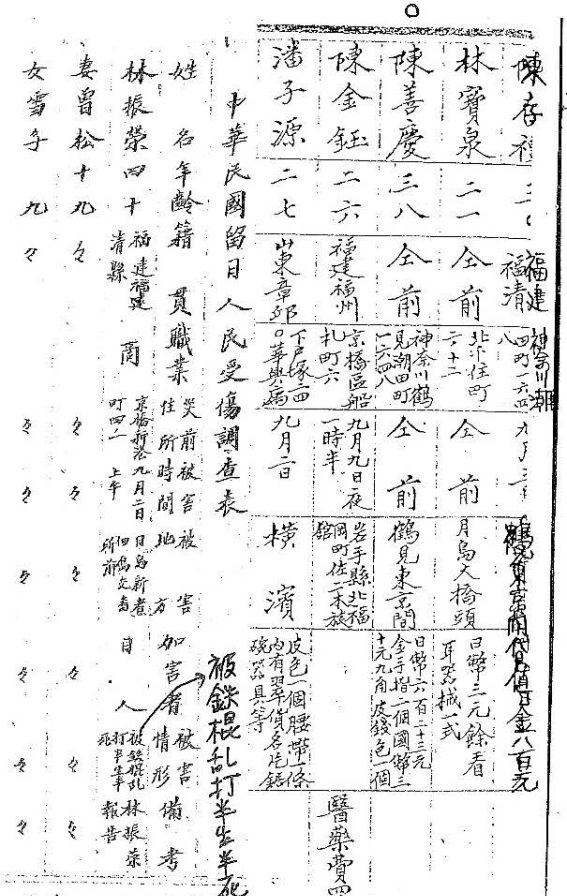
村人は「ガイジン」（蕃子）と呼んだ

父は「ヒデボウ」（飛美多）と呼んだ

娘（2才）**？**……口減らしの為に胸が大きくなってきた頃「童養媳」（トンヤンシー）に出される。「アナンチャン」は連れていかれ皆は「アナンチャン」（阿南ちゃん）と呼んだ 時大きな声で泣いた

日本の住所：（当時）
神奈川鶴見
潮田町1648

中国の住所：
福建省福清県
東瀚鎮東庄村



中華民國留日人民受傷調查表

姓名	年齡	籍貫	職業	災前被害地方所住時間	被害情形	加害者	備考
林寶泉	二一	福建福清	商	北斗住町六十二	日幣三元餘看耳器械一式	月島人橋頭	
陳善慶	三八	仝前	仝前	神奈川鶴見潮田町一六四八	日幣六百二十三元金手指一個國幣三十元九角皮錢包一個	仝前	鶴見東京間
陳金鈺	二六	福建福州	仝前	東京麻布区霞町六	岩手縣北福岡町住木放	横濱	皮色一個腰帶保有翡翠貨名片銀碗器具等
潘子源	二七	山東章邱	華僑	下戸塚一四一	醫藥費四元五錢		

陳存祥 三

姓名年齡籍貫職業災前被害地方所住時間被害情形備考

林振榮 四十 福建福清縣 商 京橋打出九月二日 上午 日島新春目 町四二 所前 偶然出會 被害者 被錄棍乱打半生半死 林振榮報告

妻曾松十九々 々 々